

ニッポンス専修

毎月1回15日発行
(定価一部90円)
発行所
専修大学広報課
〒101-8425 東京都千代田区
東神田3-8-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- 2 新学部長に聞く 福島利夫経済学部教授／馬場杉夫経営学部教授……
- 3 「専大カップ」金沢スカイヤーズが連覇……
- 4 「専大校友を訪ねて」佐々木卓也さん(平5経営)……
- 5 第7回「高校生のための経営学実践講座」……
- 6 「ロンドン五輪特集」成功導いた市民の力 小西恵美経済学部教授……
- 7 石巻専修大学 「異文化交流」活発に／石巻市街地の立体模型完成……



- エクステンションセンター公開講座
歴史を紐とく「東北の歴史と文化―再考―」
- ▽9月29日(土) 講師①荒木敏夫文学部教授 ②土生田純之文学部教授
- ▽10月6日(土) 講師①小山利彦文学部教授 ②川上隆志文学部教授
- ▽10月20日(土) 講師①大谷正文学部教授 ②矢野建一文学部教授
- 「時間」いずれも10時30分〜12時
- 「場所」生田キャンパス10号館10301教室
- 「問い合わせ」☎044-911-1268(エクステンションセンター事務課)

夏の育友会支部懇談会

全国67支部で開催

被災の東北・茨城でも多数参加

育友会(渡邊信会長)の2012年度支部懇談会はこの夏、全国67支部(64会場)で開催され、ご父母・保護者が多数参加した。日高義博理事長・学長はじめ教職員が学業・学生生活、就職などについて、ご父母・保護者と懇談。大学生活への理解促進に努めた。

青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島(3会場)、茨城(2会場)の10会場は昨年、東日本大震災の影響で修学支援相談会として実施。支部懇談会としては2年ぶりの開催となった。

福島3支部では室井副学長 庄育友会主任教授らが激励

原発事故による被害を受け、福島3支部(中通り、真木野正幸支部長、会津、梅津幸男支部長)の会場には、ご父母・保護者あわせて118人が参加した。

中通り支部懇談会は9月2日、郡山市ホテルハイツで開催され、本学から室井義雄副学長(経済学部教授)、庄菊博育友会主任教授(法学部教授)らが出席した。

▲福島(中通り)会場の支部懇談会であいさつする室井副学長



▲福島(会津)会場での面談

ており、その表れの一つが育友会の支部懇談会です。本日はみなさんからたくさんのご意見や要望をいただきました。呼びかけた。主任教授は、ご子女の学業継続と就職活動への一層の支援をしていきたい」と激励した。

鈴木支部長は「昨夏の修学支援相談会は、被災して数カ月後の開催で、切実な思いの父母から学費減免特別措置や奨学金の話が集中して出された。今回、個別相談での相談希望は『就職』が半数以上。ようやく落ち着きを取り戻しているようだ。先生方の誠実なお話に、意を強くしたと思う」と語った。(3面に関連記事)

ロンドン五輪特集

日本女子バレーボール

28年ぶりのメダル、支える



「北京からの4年間で個人の能力が上がりましたし、それを『チームの力』に

膨大なデータを監督・選手に伝達

「北京五輪に続いて」最高の舞台に2度も行くことができ、入学前から抱いていた「IT(情報技術)をバレーボールに生かす」という目標を実現できたのは、多くの出会いと支えのおかげです。現地では、レスリング・チームリーダーの佐藤満経営学部教授や、日本代表選手団本部員の久木留毅文学部准教授からも激励され、専大の絆を感じました。

会場では無線LANが使えないというアクシデントがあったが、「さまざまなるリスクに対応できるように最大限の準備をして会場入りしていたので、これまでに蓄積してきた膨大なデータを基に相手のウィークポイントを分析し、監督にもデータを提供することができました。渡辺さんは、日本が準々決勝で中国と対戦することを想定し、相当な時間をかけて徹底的に戦術を研究した。その結果、2004年のアテネ五輪優勝、08年の北京五輪3位の中国を日本はフルセットの末、破った。

「最後は、いかに相手に勝ちたいか、その気持ちを上回っている方に分がある。日本は気持ちで負けていませんでした」

3位決定戦・対韓国戦の前には、「自分を信じ、仲間を信じる」をテーマにした映像を制作し、当日の朝、選手に見せて送り出したという。

「北京からの4年間で個人の能力が上がりましたし、それを『チームの力』に

膨大なデータを監督・選手に伝達

「一度決めたなら徹底的にのめり込む性格。もっと楽な道があったかもしれない。でも、学生生活のほとんどをバレーボール漬けで過ごし、本気で取り組んできたことが、今回の結果に結びつきました」と振り返る。

「自信を持って情報を提供するには、それだけの準備をしなければならぬ。最後に自分を支えられるのは自分だけ」という信念に基づ



▲バレーボール部の監督、後輩らと中央が渡辺さん＝生田・総合体育館で

「情報戦を制した」アナリストの活躍は、多くのメダルで取り上げられた。専大ではバレーボール部に在籍しながら、3年次から監督や選手にいかにかかりやすく伝え、選手たちが自信を持ってコートに立てるようサポートすること。睡眠時間3、4時間というところにもありましたが、頑張っている選手の姿をみると、自分のできる最大限のことをしてあげたい、しなければならぬ。一度決めたなら徹底的にのめり込む性格。もっと楽な道があったかもしれない。でも、学生生活のほとんどをバレーボール漬けで過ごし、本気で取り組んできたことが、今回の結果に結びつきました」と振り返る。

「自信を持って情報を提供するには、それだけの準備をしなければならぬ。最後に自分を支えられるのは自分だけ」という信念に基づ

アナリスト・渡辺啓太さん (平18 ネット情報)

数々の感動を日本国中に与えてくれたロンドン五輪。28年ぶりに銅メダルを獲得した女子バレーボールチームをアナリストとしてデータ分析で支えた一人が渡辺啓太さん(平18 ネット情報)日本バレーボール協会だ。

8月24日から始まった全日本合宿の前に生田キャンパスを訪れた渡辺さんに話を聞いた。

「北京五輪に続いて」最高の舞台に2度も行くことができ、入学前から抱いていた「IT(情報技術)をバレーボールに生かす」という目標を実現できたのは、多くの出会いと支えのおかげです。現地では、レスリング・チームリーダーの佐藤満経営学部教授や、日本代表選手団本部員の久木留毅文学部准教授からも激励され、専大の絆を感じました。

会場では無線LANが使えないというアクシデントがあったが、「さまざまなるリスクに対応できるように最大限の準備をして会場入りしていたので、これまでに蓄積してきた膨大なデータを基に相手のウィークポイントを分析し、監督にもデータを提供することができました。渡辺さんは、日本が準々決勝で中国と対戦することを想定し、相当な時間をかけて徹底的に戦術を研究した。その結果、2004年のアテネ五輪優勝、08年の北京五輪3位の中国を日本はフルセットの末、破った。

「最後は、いかに相手に勝ちたいか、その気持ちを上回っている方に分がある。日本は気持ちで負けていませんでした」

3位決定戦・対韓国戦の前には、「自分を信じ、仲間を信じる」をテーマにした映像を制作し、当日の朝、選手に見せて送り出したという。

「北京からの4年間で個人の能力が上がりましたし、それを『チームの力』に

結果できる強さが加わりました。アナリストの仕事は、丹念にデータを収集し、複数のデータを読み解いて監督や選手にいかにかかりやすく伝え、選手たちが自信を持ってコートに立てるようサポートすること。睡眠時間3、4時間というところにもありましたが、頑張っている選手の姿をみると、自分のできる最大限のことをしてあげたい、しなければならぬ。一度決めたなら徹底的にのめり込む性格。もっと楽な道があったかもしれない。でも、学生生活のほとんどをバレーボール漬けで過ごし、本気で取り組んできたことが、今回の結果に結びつきました」と振り返る。

「自信を持って情報を提供するには、それだけの準備をしなければならぬ。最後に自分を支えられるのは自分だけ」という信念に基づ

大学創立記念日(9月16日)特集 6・7面

専大卒の歌手・上原敏／上海に「三浦文庫」